

3 社会的卵子凍結に関する県の取組

3 社会的卵子凍結に関する県の取組

(本日の論点)

- いわゆる「社会的卵子凍結」については、これに係る費用の助成を実施する地方自治体も出てきているが、その意義や課題については様々な意見がある。
- こうした状況を踏まえ、また日頃の委員の御知見等をもとに、社会的卵子凍結に関し、県として、今後どのような取組を進めることが適切かについて御意見をいただきたい。

3 社会的卵子凍結に関する県の取組

(卵子凍結とは)

医療的卵子凍結
(医学的適応)

がんなどの病気が原因で妊よう性（妊娠するために必要な力）の温存のために行うこと

社会的卵子凍結
(社会的適応)

健康な女性が将来の妊娠に備えて行うこと

- ・ 日本では、2013（平成25年）年に、一般社団法人日本生殖医学会倫理委員会が近年の未受精卵子および卵巣組織凍結技術の急速な進歩とその臨床応用の現況を考慮し、社会的卵子凍結に関するガイドラインを提示した。
- ・ なお、日本生殖医学会は、「同ガイドラインは卵子凍結の実施を推奨するものではなく、また、母児の合併症やさまざまなリスクを考慮すると、妊娠・分娩には適切な年齢が存在することからも、卵子凍結やそれによる妊娠・分娩時期の先送りを推奨するものではない」としている。

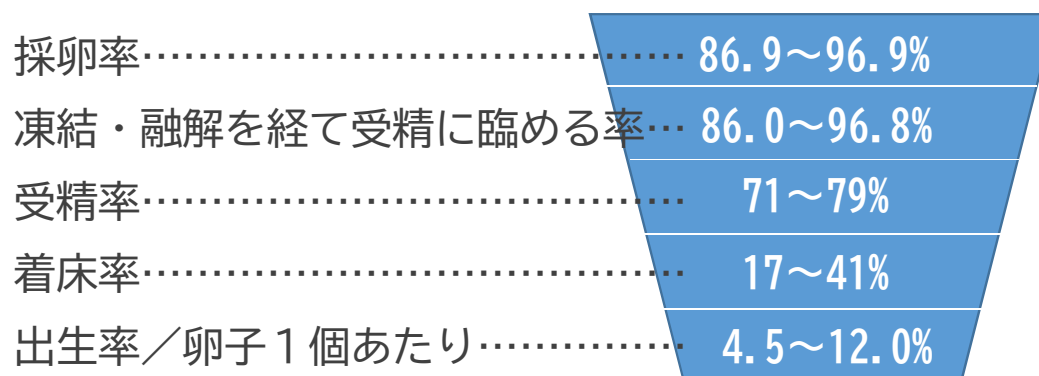
3 社会的卵子凍結に関する県の取組

(社会的卵子凍結の意義と課題)

出典：公益社団法人日本産婦人科学会「ノンメディカルな卵子凍結をお考えの方へ」

意義（メリット）	課題（デメリット）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 卵子の量と質の変化を一時的に止める効果 ・ 不妊の原因となる病気にかかる前に将来の妊娠に備える効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の医療技術では凍結卵子が妊娠成立までたどり着く可能性は不確実であること ・ 卵子をどのくらい凍結すると赤ちゃんを得られるのかが不確実であること ・ 年齢が高くなってからの妊娠・出産は母体にも赤ちゃんにも様々なリスクが高まること

未授精卵子凍結の成績



3 社会的卵子凍結に関する県の取組

(県の社会的卵子凍結に関する考え)

- 社会的卵子凍結は、費用が高額であることや、卵子を取り出す際の感染症等のリスクといった課題もあるが、女性が自身の生き方、キャリアプランを考えていく中で、有効な選択肢の一つであると認識している。
- 重要なことは、卵子は精子と異なり、生まれてから年齢とともに減少・老化するといった知識も含め、将来の妊娠や出産等も視野に入れ、若い頃から自分の生き方、キャリアプランを考えていただくこと。

3 社会的卵子凍結に関する県の取組

(県の取組 (令和6年度))

県HPによる情報発信	ウェブサイト「丘の上のお医者さん」による妊娠・出産に関する正しい地域の普及啓発 (ライフプランシュミレーター等)
オンラインによるプレコンセプションケア相談	10代などの若い頃から自分の身体や将来の妊娠について正しく理解して日常生活や健康に向き合う「プレコンセプションケア」について、コミュニケーションアプリ「LINE」のメッセージチャットやビデオ通話等を活用し、専門家による相談を実施する。
プレコンセプションケア講座	若い世代におけるプレコンセプションケアを推進するため、県内企業の若手従業員や学校を対象とした出前講座を実施する。
若年世代に対するプレコンセプションケアの普及啓発	県が作成する高校生向け健康・未病学習教材に、新たにプレコンセプションケアに関する説明ページを追加し、若年世代へのプレコンセプションケアの普及啓発を図る。(高校一年生に配布)
職場環境整備促進事業	仕事と不妊治療 (又は卵子凍結) 等を両立できる職場環境の整備に取り組む中小企業を対象に、奨励金を交付する。
※市町村不妊治療費助成事業費補助	希望する人が安心して出産・子育てができる環境整備を図るため、市町村と連携して、保険適用外となる不妊治療のうち「先進医療」に指定された治療に係る費用を支援することで、経済的負担の軽減を図る。(卵子凍結は対象外)

3 社会的卵子凍結に関する県の取組

(参考) 地方自治体・民間企業による社会的卵子凍結に関する助成制度

	東京都（令和6年度）		山梨県（令和6年度予定）	
概要	加齢等による妊娠機能の低下を懸念する場合に行う卵子凍結に係る費用を助成する		女性の多様なキャリア形成・ライフプランを実現するため、加齢による生殖機能の低下に不安がある者等に対し卵子凍結保存等に係る医療費を助成する	
主な要件	・卵子凍結に係る費用の助成対象者向け説明会へ参加し、調査事業への協力申請を行い、協力承認決定を受けること		・プレコンセプションケア研修会への参加	
補助対象	卵子凍結	凍結卵子を使用した生殖補助医療	卵子凍結	凍結卵子を使用した生殖補助医療
対象年齢	18～39歳	43歳未満	(未定)	
補助額	20万円	25万円	20万円	12万5千円
補助回数	1回	40歳未満：最大6回 40歳以上：最大3回	最大2回	最大3回

株式会社メルカリ	<p>【目的】 働き方が多様化する社会において、社員がキャリア形成やライフプランを考える上で、より幅広い選択肢を提供すること。</p> <p>【支援内容】 卵巣刺激、採卵、麻酔、凍結保存、凍結卵子融解、凍結保存延長、検査など卵子凍結に関する費用（妊活サポートの一環として200万円/子を上限として利用可能）</p>
株式会社サイバーエージェント	<p>【目的】 女性活躍が進み、また個人の価値観やライフスタイルの多様化が進む中、社員のライフプランやキャリア形成の選択肢を広げるとともに、一人ひとりの社員が能力を発揮しながら自分らしく長期で活躍できる職場環境の実現を目指すため。</p> <p>【支援内容】 女性社員を対象に、各種検査や卵巣刺激、採卵、凍結保存など卵子凍結に関する費用について一人40万円（上限）補助。</p>